

Library of Congress の

レファレンス・コレクション

—LC 職員研修に参加して—

千代由利

はじめに

筆者は現在 Library of Congress (LC) 日本課において LC 所蔵旧満鉄資料の複写収集作業に従事しているが、この度、LC 職員を対象とする研修 Reference Collections in the Library of Congress を受講する機会を得た。そこで、この研修の概要と、その中で特に印象の深かったメイン・リーディングルームのレファレンス・コレクションについて記してみたい。

I 研修概要

1 日時

研修は、1982年4月6日～22日の毎火曜、木曜、6回にわたり行われた。時間割、および科目は別表のとおりである。

2 受講者

30名前後で、大方はリサーチ・サービス部門の職員であったが、その他に、盲人、身体障害者全国図書館サービス1名、議会調査局1名、著作権局1名、整理局2名の職員が受講した。

予想していた若人よりは、かなりの経験者と見受けられる人が多かった。後に記

すように、研修の内容は、各閲覧室が持つレファレンス・コレクションのオリエンテーションであったが、こうした研修に中堅職員の受講者が多い理由の一つに、一度入った職場から異動するには、自分で他部局に応募し採用される方法しかなく、たとえ長く勤めていても他の部局のことについて知ることが難しい LC の人事事情が考えられる。

3 講師

当該部局のレファレンス・コレクションの責任者、あるいは、閲覧室、レファレンス担当の責任者が、それぞれ講師をつとめた。

4 研修内容

別掲時間割のように、午前中は新館(マディソン・ビルディング)6階の研修室で、各講師よりそれぞれのコレクションについての講義を受け、午後は見学にあてられた。

1) 講義

一般に、レファレンス・コレクションとは、レファレンス・サービスのために組織的に集められた資料群やツール類を指すが、この研修では、その説明にとどまることなく、各部局ないし各閲覧室の成立以

	4月6日	4月8日	4月13日	4月15日	4月20日	4月22日
午 前	開講の挨拶 他	社会科学 レファレン ス・コレク ション	アフリカ・ 中東部	マニユスク リプト部	音楽部 貴重書・特 殊コレクシ ョン部 プリント・ 写真部	法律図書室 レファレン ス・コレク ション
	著作権局 著作権記録 とコレクシ ョン	地方史・系 図学 レファレン ス・コレク ション	アジア部	地理地図部		J. F. ケネ ディセンタ ー パフォーミ ングアーツ ライブラリ ー レファレン ス・コレク ション
	カタログ の レファレン ス・コレク ション	科学技術部 レファレン ス・コレク ション	ヨーロッパ 部	放送・録音 部		メイン・リ ーディング ルーム レファレン ス・コレク ション
	マイクロ・ フォーム閱 覧室 レファレン ス・コレク ション	逐次刊行物 ・官庁刊行 物部 レファレン ス・コレク ション	ヒスパニッ ク部	映画・テレ ビジョン部		
	見		学			
午 後	著作権局	社会科学閱 覧室	ヨーロッパ部 ヒスパニック部	放送・録音部	貴重書・特殊コ レクション部 プリント・写真 部	メイン・リ ーディング ルーム

来の歴史から、現在の活動状況、保管するコレクションの内容・特色、さらに資料の利用方法、検索ツールまでを含んだ講義であった。

主題別あるいは資料形態により分けられた18の閲覧室が持つコレクション群は、そのいずれもが、「ユニークな」「世界一の」、「本国を除けば世界一の」等の形容詞を恣にする質量共に優れたものであるだけに、その講義はいずれも興味深いものであった。

その中から、ここでは閲覧者が最初に訪

れる所であり、各専門室への窓口となる「メイン・リーディングルーム」とそのアネックスともいふべき新設の「社会科学閲覧室」をとりあげてみたい。それは、国立国会図書館において参考業務に携っていたための個人的関心と、それにもまして、メイン・リーディングルームのいかにもアメリカ的なバカでかさに強く魅きつけられたためかもしれない。

なお、研修課目の中には、LC内閲覧室を持ち一般に公開されているコレクションとは別に、①職員の実務用に組織され

た、“カタログのレファレンス・コレクション”，②1897年に設立され、LCが著作権登録事務を始めた1870年以来の著作権記録と著作物を管理する“著作権局の記録とコレクション”，③ポトマック河畔の劇場、ケネディ・センター内に設けられ、LCとセンターが運営する“パフォーミング・アーツ・ライブラリーのコレクション”についての講義も含まれていた。

2) 見学

午後の見学は、午前中に受講する課目の中から各自が事前に、希望する1箇所を申請し、それに基づいて編成されたグループごとに行われた。表には、筆者の見学した場所を記した。見学日時の変更等により、予定より多く見学することが出来たが、受講したすべてのコレクションを見学できなかったのは残念である。

II メイン・リーディングルーム

1 概観

LCの本館（トーマス・ジェファーソン・ビルディング）は1897年に完成したイタリア・ルネサンス様式の壮麗な建物である。40万立方フィートの花崗岩、55万個のエナメル煉瓦、2,400万個の赤煉瓦、3,000トンの鉄と鋼、70,000パレルのセメントを用いたという。その昔、建築家達は、この新しい“合衆国国立図書館”を文化の殿堂と宣し、単なる本の保管場所とは考えなかった。アメリカ人の誰もが、生涯に一度は訪れたいと思う、“若い巨大な共和国のメッカ”を目指したのである。確かに85年たった今も毎日、アメリカ各地から、否、世界の各国から沢山の人が訪れている。彼等は一緒に、その蔵書、書架の延距離、職

員、1分間に入ってくる本などの歴大な数字に驚嘆の声を発するが、なによりもその壮麗な建物と、あふれんばかりの装飾に目を眩してしまふ。そして、自分の立っている所が図書館であることを忘れてしまふ。この夏、アメリカの田舎から訪れた1人の高校生は、「いったい、本はどこにあるの」と素朴な疑問を発したという。

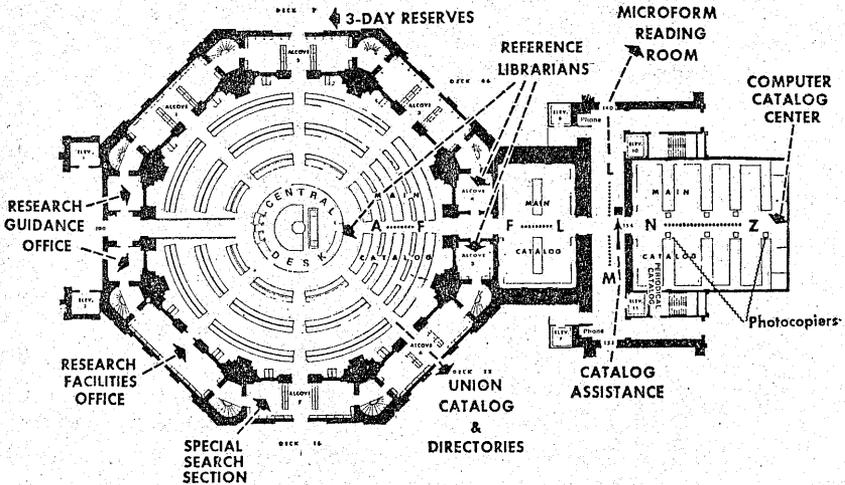
正面玄関より、白い大理石の柱が屹立する“大ホール”を横切り階段を登ると、見学者用に設けられたギャラリーがある。そこから豪華なドームとその下に広がる壮大な八角形の閲覧室を見下ろすことができる。文明生活と思想を表現する様々な意匠の彫刻、壁画、絵画などがふんだんに施されたこの閲覧室がLCの中心をなすメイン・リーディングルームである。この豊富な装飾に目を奪われていると、この部屋に置かれている、さしもの大レファレンス・コレクションも少しも目立たないものになってしまう。

ドームの真下、閲覧室の中央に位置する円形の収納台（セントラル・デスク）を囲み、212の閲覧席およびLC所蔵閲覧用目録カード2億4,100万枚が放射状に拡がり、カードは次の2室まで続いていく。この閲覧室の周りを、メイン・フロア、バルコニーの2層から成るレファレンス・コレクションの書架群がとり囲んでいる。

2 レファレンス・コレクション

タイトル数およそ17,400, 44,000冊に及ぶレファレンス・コレクションは、その中心を人文・社会科学分野におくが、自然科学分野をも含む、ジェネラルなコレクションである。ただし、科学技術、音楽、法律、地域研究（アジア、アフリカ・中東、ヨーロッパ、ヒスパニック）などの各主題

MAIN READING ROOM



別閲覧室がカバーする領域については、特に力を入れず、基本的なものをおくにとどめている。特殊言語で書かれた資料については、各地域別閲覧室に任されており、主として英語の資料が置かれている。これら主題領域の参考図書維持、整備については関係部局との間に適宜連絡がとられている。各国の全国書誌は、主要各国についてはよく揃えられているものの、たとえばアジアではインドのものしか置かれていず、より完全なものを求めるには、整理局に行かねばならない。

3 配架場所

レファレンス・コレクションは、閲覧席のあるメイン・フロアと、バルコニーと呼ばれる中2階のそれぞれの小部屋（アルコーブ）1～7、中央出納台の囲り（サークル）、およびメイン・フロアのアルコーブ6から通じる書庫33に配架されている。（次頁の図参照）

メイン・フロア、アルコーブ1から、コ

レクションの内容を具体的に見ていきたい。なお各アルコーブの中の資料は、請求記号順に配架され、配列は次頁の図の矢印の番号順である。

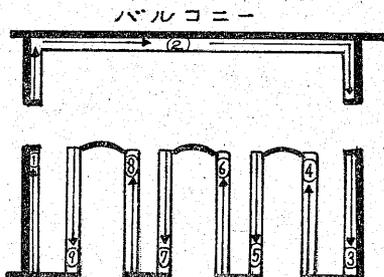
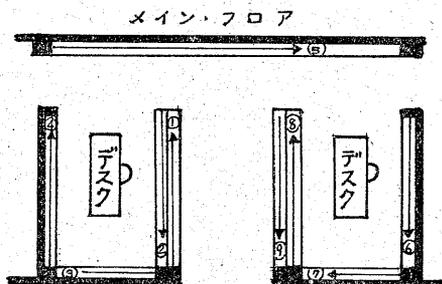
1) メイン・フロア

アルコーブ1:

ケースに納められた各国のアトラス類が入口左に置かれ、書架には、分類記号Aの各国の百科事典、雑誌・新聞記事索引、年鑑類に始まり、Zの分類記号を持つ書誌類、図書館学関係の参考図書が続く。又ここには、Z663を付された *LC Information Bulletin* や *LC Annual Report* を始めとするLCの出版物がかなりのスペースを占めている。

アルコーブ2,3:

この二つのアルコーブにも、書誌、図書館学関係の資料が続いている。全国書誌など国別および地域別の書誌が、アメリカを先頭にカナダ、ラテン・アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ:その他のヨーロッパ諸国、アジア、ア



フリカの各国，オーストラリアの順に並んでいる。主題別の書誌がそれに続き，博士論文索引類および政治・社会科学関係の書誌類が配架されている。

アルコーブ4,5:

利用者の質問に答えるために，レファレンス・ライブラリアンの待機するこの二つのアルコーブには，特にクィック・レファレンスのための参考図書類がおかれている。

レファレンス・ライブラリアンは，この他に中央出納台及び，18台のターミナルが並ぶコンピューター・カタログセンターにもおり，合せて常時8名程が，このメイン・リーディングルームで閲覧者に便宜を図っている。

また，アルコーブ4と5の間の通路には，メイン・リーディングルーム備付のレファレンス・コレクションのカード目録があり，著者，書名，請求記号により編成されている。

アルコーブ6:

Who's who, 伝記索引など人物に関する参考図書類が配架されている。但し，アメリカ大統領の伝記に関する資料を除き，個人の伝記関係参考図書はおかれていない。なお，このアルコーブ6から書庫33に行くことができる。

書庫33:

National Union Catalog Pre-1956 Imprints およびそれ以後の NUC, 大英図書館, フランス国立図書館, ニューヨーク公共図書館など大図書館の所蔵目録のような大部の冊子体目録が配架され, また, アメリカ議会議事録, ヒアリング, *Federal Register* およびアメリカ各都市の名簿類, 電話帳, 外国の電話帳などもここにある。

アルコーブ7:

上下院のジャーナル, アメリカの法令類がおかれている。

また, ここには, Special Search Section が設けられており, 出納不能図書の調査を担当している。

アルコーブ8:

Research Facilities Office があり, 研究のために長期にわたり LC の資料を使用したい人のために, 研究者用に設けられたデスクおよびシェルフの使用申込を受付けている。

サークル:

利用頻度の高い雑誌記事索引, *Business Periodicals Index*, *F & S Index of Corporations and Industries*, *Humanities Index*, *Poole's Index*, *Public Affairs Information Service Bulletin*, *Reader's Guide to Periodical Literature*, *Social*

Sciences Index 等, および語学辞書, *Book Review Digest* の他に *Cumulative Book Index*, *American Book Publishing Record* 等の販売書誌や *Union List of Serials*, *New Serial Titles* 等が全巻揃えておかれている。

2) バルコニー

主として書誌類が配架されているメイン・フロアの各アルコーブから、螺旋階段によりバルコニーのアルコーブに登ることが出来る。バルコニーには主題別の参考図書が配架されている。

アルコーブごとに主題を並べてみると、

アルコーブ 1 :

- B : 哲学, 心理学, オカルト科学, 宗教
 - C : 考古学, 公文書, 貨幣, 紋章学, 系図学
 - D-DG : 歴史—世界, ヨーロッパ
- ### アルコーブ 2 :
- DH-DX : 歴史—ヨーロッパ(続), アジア, アフリカ, オーストラリア
 - E : アメリカ史
 - F : アメリカ地方史, カナダ, ラテン・アメリカ
 - G : 地理学, 人類学, 民族学, 衣装, スポーツ

H-HA201 : 社会科学

HA : 統計, 人口センサス

HA202-HX : 社会科学(続)

HA : 統計(続)

HB-HC : 経済理論, 経済実務

HD : 土地, 工業, 労働, 住宅

HE : 運輸, 通信

HF : 商業, ビジネス, 会計学, 広告

HG : 財政, 株式, 保険

HJ : 国家財政

HM-HX : 社会学

アルコーブ 4 :

J-JV : 政治学

アルコーブ 5 :

JX : 国際法, 条約

K1-KF4529 : 法律

アルコーブ 6 :

KF4530-KFD : 法律(続)

L : 教育

M : 音楽

N : 芸術

P1-P1989 : 語学, 文学

PA : 古典語, 古典文学

PB-PH : 近代ヨーロッパ諸語

PJ-PL : 東洋諸語および文学

PN : 文学史

アルコーブ 7 :

PN1990-PZ : 文学(続)

PN : 放送, 映画, 劇, ジャーナリズム,

引用語

PQ : ロマンズ文学

PR-PS : 英米文学

PT : ドイツ文学

Q : 科学

R : 医学

S : 農業

T : 技術

U-V : 陸・海軍

4 レファレンス・コレクションの検索 ツール

次の二つのツールがある。

一つは、前述したメイン・リーディングルーム備付けのカード目録であり、著者、書名、請求記号から検索することが出来る。

他の一つは、先頃刊行された冊子体の主題目録、

The Library of Congress Main Reading Room Reference Collection Subject Catalog. Compiled by Katherine Ann

Gardner. Library of Congress, Washington D.C. 2nd ed. 1981 v, 1236p. である。

この目録は、1980年8月現在のメイン・リーディングルーム 備付の全参考図書 17,315タイトルを収録している。その内訳は、単行本13,385タイトル、残り3,930タイトルが逐次刊行物（年報も含む）である。また、900タイトル以上が LC の刊行物である。この機械編纂された1980年版は、第1版1975年版（14,000タイトル、638頁）に比べ、活字が大きくなり、より見やすくなったが、5年間に3,000タイトル以上増え、件名の重出もなされるので、頁数はほぼ2倍に膨れ上がり、かなり大部なものになった。

なお、この目録の編纂者である Katherine A. Gardnerさんは、メイン・リーディングルーム、レファレンス・コレクションの責任者であり、今回の研修の講師であ

った。

1) 目録の記入

著者、(簡略)書名、版、出版地、出版者、発行年、(逐次刊行物の場合は初周年)、頁、価格、デュ-イ記号、LCカード番号、LC請求記号、メイン・リーディングルーム配架場所。

2) 配列

件名のアルファベット順、各件名の下は主記入のアルファベット順。

3) その他

配架場所は略字で表され、それぞれ次の場所を示している。(MRR はメイン・リーディングルーム)

MRR Alc: いずれかのアルコール

MRR Ref Desk: レファレンス・デスク (アルコール4,5)

MRR Biog: アルコーブ6

MRR Circ: サークル

MRR Alc (DK 33): 書庫33

JAPAN--COMMERCE-- (Cont.)

Tokyo news business directory.

1950- Tokyo, Tokyo News Service. 338/.0025 51-14706

HF5257.T6 T57 MRR Alc Latest edition

JAPAN--DESCRIPTION AND TRAVEL-- 1945-

Namioka, Lensey. Japan, a traveler's companion / New York : Vanguard Press, c1979. x, 253 p. ; 952.04 78-63639

DS811 .N353 1979 MRR Alc.

Trewartha, Glenn Thomas, Japan, a geography Madison, University of Wisconsin Press, 1965. x, 652 p. 915.2 65-11200

DS811 .T72 MRR Alc.

JAPAN--DESCRIPTION AND TRAVEL-- 1945- --GUIDE-BOOKS.

Fodor's Japan and Korea. 1975- New York, D. McKay Co. \$10.95 915.2/04/4 75-643542

DS811 .F6 MRR Alc Latest

JAPAN--FOREIGN RELATIONS- BIBLIOGRAPHY.

Uyehara, Cecil H., com. Checklist of archive Japanese Ministry of Affairs, Tokyo, Japan: 1945; Washington, Photoduplication Ser' Library of Congress, xii, 262 p. 016.32' 60045

Z663.96 .C5 MRR A1

JAPAN--GAZETTEERS.

United States. Office Geography. Japan; Washington, U.S. Gov Print. Off., 1955. 915.2 55-63681 DS805 .U525 MRR A1

JAPAN--HISTORY.

Borton, Hugh. Japan's century; 2d ed. New Ronald Press 1970 p. 952.03 70-1105 DS835 .86 1970 MRR

Hane, Mikiso. Japan; a historical survey. York Scribner 1972

逐次刊行物のホールディングは表示されないが、Latest edition, Latest edition* の表示は、最新版のみ、あるいは最新版の1版前のみを備付けていることを表わし、Partial set は最近の何年か分だけを備え付けているか、あるいは不完全セットであることを表わし、Full set は全巻あるいはほぼ全巻揃っていることを示している。(前ページの目録見本参照)

III 社会科学閲覧室

従来、トーマス・ジェファーソン閲覧室と呼ばれていた、現在のジョン・アダムス・ビルディング(第1別館)5階の閲覧室は、科学技術閲覧室及地方史・系図学閲覧室とフロアを分け合い、本館のメイン・リーディングルームをすべて小型にした一般閲覧室であった。そのレファレンス・コレクションは、すべて複本により構成されていた。

今年初め、地方史・系図学閲覧室が本館に移転、そのスペースを加え、名称も社会科学閲覧室と改められ、新装開店したところである。特に、ビジネス、経済、政治学、社会学の分野に重点を置き、資料を充実させつつ、やがては独自の活動を始めるのであろう。開店直後の現在は、レファレンス・ライブラリアンにしても、こことメイン・リーディングルームをローテーションにより担当しており、まだまだその性格がいま一つはっきりしないという感じである。

LCの閲覧室の参考図書類には、請求記号のほかに、略号でロケーションが表示されているが、(たとえば、MRR: Main Reading Room, TJRR: Thomas Jefferson Reading Room), 4月には、この部

屋の資料は、TJRRと複本表示のラベルばかりであった。しかし、8月の今、新しいSSRR: Social Science Reading Roomのラベルが目立つようになり、正本の数も目に見えて増えている。さらに、4月には、まだがらんどろだった元の地方史・系図学閲覧室にBiographyのセクションが設けられ、社会科学閲覧室は少しずつその体裁を整え、ゆっくりと歩み始めている。

目録類は、レファレンス・コレクションのカード目録、部屋に備え付けられたターミナル、廊下に並ぶNUCがあり、必要なジュネラル・コレクション中の資料の請求は、単行本、逐次刊行物(但し製本済のもの)を問わず、本館の中央出納台まで足を運ぶことなく、この閲覧室の出納台で請求することができる。

さいごに

世界中の注目を集めて完成した、あの歴大な書誌群NUC Pre-1956 Imprintsに与えられた“ガルガンチュワ”の異名は、このメイン・リーディングルームのレファレンス・コレクションにも似合う。

閲覧者が、主題により分けられた参考図書を求めて歩きまわらずにすむようにしたい。一長一短のある同主題の参考図書を、すべて並べておきたい。利用頻度の高い雑誌記事索引、年鑑などは完全なセットを揃えておきたい。

参考業務に携っていた時の、こんな悩みをLCのメイン・リーディングルームは、その豊富なスペースを資料で即座に解決してくれるように思える。

だが、メイン・フロアのアルコーブに立ち、バルコニーを見上げながらの講師の説明はそれだけで優に2時間は越えた。この

コレクションのすべてを内容的に把握し、物理的に維持、管理していくことの困難さが頭を掠め、また1人のレファレンス・ライブラリアンのカバーできる守備範囲に対する不安が頭から離れなかった。それは、資料を持ちながらも、結局は、専門分野の閲覧室へ案内してしまうのではないかと、もどかしさと不安である。

また、たとえば、メイン・リーディングルームに置かれた、日本に関する参考図書調べてみた時、経済、産業関係のダイレクトリー、統計などの継続物は、新しい版が揃っているものの、語学辞典類は、数も少なく版も古い。特に、日本・日本研究に関する書誌類は予想外に少なかった。一方に主題別閲覧室を持ちながら、それらをも含んだ“ジェネラル”なコレクションを作ろうとする時の基準、範囲の難しさなどを改めて考えさせられた。

メイン・リーディングルームのレファレンス・コレクションは、これからも世界一であり続けるだろう。しかし、その性格は時代の要請により、少しずつ変わって行か

ざるをえない。各主題別閲覧室のレファレンス・コレクションの強化と、社会科学閲覧室の出現により、このレファレンス・コレクションが、今後、その“ジェネラル”に、どのような方向付けを与えていくのかは興味深いところである。

〔付記〕

“パフォーミング・アーツ閲覧室の試み”

これまで、音楽、映画・TV、放送・録音の各部は、主題領域を共有しながら、そのコレクションは資料形態で分けられ、それぞれ独自の閲覧室のもとで発展してきた。このため“ミュージカル・コメディ”などのテーマを研究する利用者は、関連資料を求めて、これらの閲覧室を渡り歩かねばならなかった。しかし、今、“資料形態ではなく、研究主題が王様である”との利用者優先の思想から、音楽、劇場、映画、ダンスに関する資料が一カ所に集められ、新館に“パフォーミング・アーツ閲覧室”として実現されようとしている。

(ちよ・ゆり 当館派遣職員・在ワシントン)

(27ページより続く)

日記を見ると、大正6年3月1日に文行堂を訪れている。ここで購求したのではあるまいか。しかし、写本には、浅倉屋の大正3年の符丁が書かれており、本の流れが知られる。

鷗外は、3月25日に刊本恵与の謝礼を述べるとともに、図書館寄贈の件を承知したこと、また京都府立図書館への寄贈を勧め、当時図書館司書であった弟潤三郎(間もなく辞職した)を紹介している手紙を認め、4月10日に架蔵写本を上野の図書館へ小野節の名で寄贈したことを報告した手紙を書いている。日記を検するに、4月3日

に妻・茉莉・杏奴と上野の山に遊んでいる記事が出ている。寄贈願の日は2日としたのではなかったか。当然、鷗外自身の寄贈願の存在有無ということになるが、そこまでは調べてない。

小野節は長尾村(現倉敷市内)の大地主で、井上通泰を通じて和歌をよみ、やがて鷗外と交を持ち、『しがらみ草紙』にも、その詠歌が収載されている。『伊沢蘭軒』中に、節の先祖である詩集の作者泉蔵が登場している。頼山陽は、この小野家に泊ったこともある。

(人文課 朝倉治彦)